

目的 衣服に求められる機能性の重要な要因に、体型適合性があり、それを高めるような衣料サイズ設定、および衣服設計の基礎となる成人女子体型に関し研究をすすめているが、これまで何通りかの多次元体型分類を試み、得られた分類体型の特徴を捉え、年齢層との依存関係について考察することができた。本報では、体型を概観することのできる基本計測7項目、身長、乳頭位胸囲、胴囲、腰囲、背丈、全腕長、背肩幅について1次元2次元、3次元での年齢層別分布に関して特徴を捉え、さらにこれらの項目を上半身体型を概観することのできる項目にしぼり、上半身体型について類型化を試みた。

方法 基本計測7項目の1変量およびこれら相互間の2変量、3変量分布の尖度、歪度および相関係数と、1次元、2次元、3次元の年齢層別分布を求め、分布の特徴を捉えた。

胸囲、背肩幅、背丈、全腕長の4変量を用いたクラスタ分析Kmeans法による分類、これらの項目に胴囲を加えた5変量を用いた分類による上半身体型の類型化を行った。得られた分類体型の各年齢層での分類体型構成を求めた。

結果 周径項目に関し、正規性からの乖離が大きく、特に胴囲について著しい。年齢層別にみたととき20代、30代でこの傾向が著しい。即ち、20代をピークに10代、30代では尖度歪度が大きくなり分布の型が変化するが、50代では分布の位置の変化が著しく、尖度、歪度は正規分布のそれに近づく。3変量分布で捉えたとき、高さ、幅の組合せによる分布は3次元正規分布からの乖離が小さいが、周径項目を入れたとき、乖離が大きくなる。また上半身体型の類型化により得られた分類体型は、年齢層と依存関係がみられる。